

インフォメーション・コーナー

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第46回定時総会の報告	84
○平成25年度名誉会員の推挙	84
○研究部会長の交代について	85
○農業農村工学会賞「優秀報文賞」の創設について	85
○農業農村工学会賞副賞の見直しについて	85
○平成26年度農業農村工学会賞候補の推薦について 締切 10月31日	85
○東日本大震災からの復興に関する報告会の開催について 9月3日開催	86
○サマーセミナー2013参加者募集!	87
○第37回水の週間「ウォーターフェア'13東京」農業用水の展示出展について 8月12~14日開催	87
○平成25年度「戦略的研究申請支援」助成希望者の募集について(再) 申請締切 9月13日	87
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	88
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	88
○CPD単位の算出基準の一部改定について(平成25年度以降)	89
○CPD記録受付期間の延長について(Web申請対象)	89
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	89
○論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属の記載方法の変更について	89
○平成26年の表紙写真の募集 夏季締切 9月30日	90
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	90
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	91
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局(投稿先)のお知らせ	92
○平成25年度東北支部総会・第56回東北支部研究発表会ならびに第46回東北支部研修会・ 第36回地方講習会の開催について(第2報) 発表申込締切 8月30日	93
○第64回関東支部大会の開催について(第2報) 講演申込締切 7月31日	93
○第68回中国四国支部講演会ならびに第37回地方講習会の開催について(第1報) 講演原稿締切 8月30日	95
○平成25年度九州沖縄支部大会(第94回講演会・第36回講習会・シンポジウム・現地見学会)の 開催について(第2報) 投稿締切 8月30日	95
○平成25年度資源循環研究部会研究発表会の発表者募集について 投稿締切 8月23日	97
学会記事	99

第81巻第8号予定

展望：ため池の経年変化と維持管理：毛利栄征

小特集：老朽化したため池の整備・管理

- ①常時微動スペクトルデータを用いた損傷ため池堤体の健全度評価：鈴木哲也ほか
- ②ため池決壊時の簡易氾濫解析の改善に関して：川本 治ほか
- ③防災・減災意識を醸成する「手作り防災マップWS」プログラム：重岡 徹ほか
- ④土構造物の地震波伝播特性評価と経年変化監視への適用性：黒田清一郎ほか
- ⑤ため池の防災・減災対策の施策について：佐々木 聡ほか
- ⑥過疎高齢化地域の老朽化・放棄ため池の新たな利活用創造に向けた取組み：嶺田拓也ほか
- ⑦灌漑用から養鯉用に転換されたため池の歴史と今後の可能性：坂田寧代
- ⑧スリランカの老朽化した小規模ため池整備上の課題と対策：岡 直子ほか

技術レポート

- 北海道支部：コンクリート水路橋の表面補修事例：加藤太吾ほか
 東北支部：孫沢ため池災害復旧工事の実施事例：三上浩二ほか
 関東支部：ため池の新たな調査の試みと先人の知恵：粕尾明弘ほか
 京都支部：青蓮寺用水地区応急対策における対策優先度の評価手法：長嶋滋則ほか
 中国四国支部：平成16年災の災害復旧状況報告について—大用知地区—：柳田剛志ほか
 九州沖縄支部：畑作営農における湛水防除の推進：原 守利ほか

小講座：常時微動とは？：横井俊明

私のビジョン：独自の研究目的を探して：藤澤和謙

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成25年9月 3～5日	大会運営委員会	平成25年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ	—	東京都	80巻12号 81巻1.4号
平成25年10月 17, 18日	中国四国支部	第68回講演会・第37回地方講習会 ⓑ	—	高松市	81巻7号
平成25年10月 24, 25日	東北支部	平成25年度総会・第56回研究発表会 ・第46回研修会・第36回地方講習会 ⓑ	—	青森市	81巻6,7号
平成25年10月 30日	関東支部	第64回支部大会講演会・講習会 ⓑ	—	宇都宮市	81巻6,7号
平成25年11月 6, 7日	九州沖縄支部	第94回講演会・第36回講習会・シン ポジウム・現地見学会 ⓑ	—	宮崎市	81巻5,7号
平成25年11月 13, 14日	京都支部	第70回研究発表会 ⓑ	—	京都市	81巻4,6号
平成25年11月 15日	資源循環研究部会	平成25年度研究発表会 ⓑ	資源循環技術を活用した強い 地域づくりを目指して	東京都	81巻7号
平成25年11月 26, 27日	農地保全研究部会	第34回研究集会 ⓑ	東日本大震災により被災した 農地の復旧・復興のいま(仮)	仙台市	81巻6号

公益社団法人農業農村工学会第46回定時総会の報告

第46回定時総会を開催したので報告します。

- 日時 平成25年5月29日(水) 14:00～15:00
- 場所 農業土木会館2階会議室
- 代議員現在数および定足数
現在数 102名 定足数 51名
- 出席代議員数 83名(内、出席 3名、書面により議決権
を行使した代議員 14名、委任状により
議決権を代理行使した代議員 66名)
- 定足数の確認
総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定
時総会の成立を確認した。
- 出席役員 塩沢 昌会長、小前隆美専務理事、
佐々木清貴、八丁信正両監事
- 議長の選出
塩沢会長が仮議長となり、全員一致で小泉 健代議員を議長
に選出した。
- 議事録署名人の選出
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、堀井
健次、湯浅真介の両代議員を全員一致で選出した。
- 議事
決議事項
(1) 議案1 平成24年度事業報告

専務理事から同議案について、平成24年4月1日に公
益社団法人の登記を行った等のトピックスを詳しく紹介
した後、事業計画に基づき事業を実施した旨の説明が
あった。審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決し
た。

(2) 議案2 平成24年度決算

専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1
会計、公2会計および法人会計の説明があった。この際、
監事から平成24年度事業報告および決算についてその
内容を監査した結果、適正正確であるとの報告があった。
審議の結果、提示案どおり、全員一致で可決した。

(3) 議案3 名誉会員の推挙

専務理事から同議案について、22名の方の名誉会員推
挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり、全員一致
で可決した。

報告事項

(1) 報告1 平成25年度事業計画について

専務理事から平成25年度事業計画について説明が
あった。

(2) 報告2 平成25年度予算について

専務理事から平成25年度予算について説明があった。

平成25年度名誉会員の推挙

第46回定時総会の議により、「名誉会員の推挙に関する内
規」に則って第227回理事会で推薦された次の正会員(敬称
略)を名誉会員に推挙した。これにより名誉会員の現在数は

243名となった。

秋吉康弘、足立忠司、大堀忠至、風間 彰、川合 尚、
河地利彦、川本保雄、木村克彦、木村 肇、久次米英昭、

小林 登, 近藤勝英, 齋藤 健, 崎野信義, 畑 武志, 山本泰彦, 湯浅満之
水主洋三, 宮崎 毅, 矢沢正士, 矢野武彦, 山本太平,

研究部会長の交代について

平成 25 年 5 月 15 日付で下記研究部会長が交代しました。
 記
 研究部会名 土壌物理研究部会
 新部会長 安中 武幸 (山形大学農学部教授)
 前部会長 塩沢 昌

農業農村工学会賞「優秀報文賞」の創設について

平成 26 年度より農業農村工学会賞に「優秀報文賞」が創設されます。それに伴う「学会賞授賞規程」および「学会賞授賞運営要領」について、第 149 回研究委員会 (平成 25 年 4 月 24 日開催) で改定案を作成し、第 228 回理事会 (平成 25 年 5 月 15 日開催) で決定されました。

今回の改定の要旨は以下のとおりです。

- ・優秀賞の中に「優秀報文賞」を創設し、従来学会誌の報文を優秀論文賞の対象としていた運用は廃止します。これに

より、優れた論文には「優秀論文賞」を、優れた報文には「優秀報文賞」を授与することになります。

- ・対象業績の範囲を過去 1 年間とすることや、推薦を自薦、他薦または企画・編集委員会の推薦とすることは優秀論文賞と同様です。

平成 26 年度学会賞の推薦に当たっては、このことをご承知おき下さい。

ご不明の点は調査研究部までお問い合わせ下さい。

農業農村工学会賞副賞の見直しについて

農業農村工学会賞副賞の見直しが、第 149 回研究委員会 (平成 25 年 4 月 24 日開催) での審議を経て、第 228 回理事会 (平成 25 年 5 月 15 日開催) で決定されました。

平成 26 年度より学術賞の副賞が、銅鐸から、ほかの賞と同

様の楯に変更されます。

また、副賞賞金はすべて廃止されます。

ご不明の点は調査研究部までお問い合わせ下さい。

平成 26 年度農業農村工学会賞候補の推薦について

平成 26 年度の農業農村工学会賞 (上野賞, 沢田賞を除く) を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切は、平成 25 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照下さい。

平成 26 年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種類	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績			
賞の対象範囲および期間	平成 20 年 10 月から平成 25 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 22 年 10 月から平成 25 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 22 年 10 月から平成 25 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 24 年 10 月から平成 25 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文とする。	平成 24 年 10 月から平成 25 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された報文とする。	平成 23 年 10 月から平成 25 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成 20 年 10 月から平成 25 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された報文とする。
受賞候補者	個人			個人		個人または組織、団体	個人
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績 (コピー可) を 1 部提出する (いずれも返却しない)。			

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広げ世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる業績	農業農村工学教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く紹介、あるいは研究分析した業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術・技術についての、国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成15年10月から平成25年9月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したもののみを対象とする。	平成15年10月から平成25年9月までの業績を対象とする。	平成23年10月から平成25年9月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成20年10月から平成25年9月までの業績を対象とする。	平成20年10月から平成25年9月までの活動を対象とする。	平成20年10月から平成25年9月までの活動を対象とする。	平成23年10月から平成25年9月までに発表された、農業農村工学に関連した作品を対象とする。	平成25年度末に65歳以上に達している個人
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。		正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	平成25年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

東日本大震災からの復興に関する報告会の開催について

大会運営委員会・行事企画委員会

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成25年度農業農村工学会大会講演会の初日に、下記により東日本大震災からの復興に関する報告会を開催します。あらかじめ登録いただく必要はありませんので、ぜひご参加下さい。

報告3「復旧復興に向けた東京農大の取り組み」
東京農業大学教授 門間俊幸
報告4「復旧復興に向けた農村工学研究所の取り組み（仮）」
農村工学研究所（調整中）

記

1. テーマ 東日本大震災からの復興に向けて
—農業・農村の現状と対策—
2. 目的 東日本大震災からの復興に向けて農業農村工学分野が果たすべき役割について会員間で認識の共有を図る。
3. 主催 大会運営委員会，行事企画委員会
4. 日時 平成25年9月3日（火）16：20～17：50
5. 会場 東京農業大学百周年記念講堂
6. 構成
報告1「農地・農業用施設の復旧の現状とこれから」
東北農政局整備部長 小林厚司
報告2「農村の復興の現状と課題」
岩手大学教授 広田純一

※情報提供のお願い

当日の配布資料には、講演の資料とともに、学会員の皆様による震災復興への取り組みの概要を取録したいと考えております。掲載を希望される会員の方は、7月31日（水）までに概要原稿（A4判，4ページ，40字×40行/ページ，図・写真を含む）をご提出下さい。

- ① 大学，研究機関，民間企業などによる組織的な取り組みの内容を紹介します。
- ② 別途，報告書や論文をとりまとめ済みで，学会ホームページへの掲載またはリンクをご希望の場合は，概要の原稿にそのリスト（文献名，著者，発行者，発行年月日）を記載して下さい。

原稿送付先・問合せ先：農業農村工学会事務局調査研究部
E-mail：suido@jsidre.or.jp

サマーセミナー 2013 参加者募集！
2013 年度テーマ「霞ヶ浦への農業農村工学の関わりから農業農村工学のあり方を考える」

こんにちは。農業農村工学サマーセミナー実行委員会です。今年も農業農村工学を学ぶ学生を対象に、サマーセミナーを開催いたします。このサマーセミナーは今年で16回目となる学生・院生の自主企画のセミナーで、例年さまざまな大学から多くの学生が参加し、施設見学や議論を通じた交流を行っています。

今年度のテーマは「霞ヶ浦への農業農村工学の関わりから農業農村工学のあり方を考える」です。茨城県に位置する霞ヶ浦の水質問題を中心に、これまでの農業農村工学の取組みを学び、議論し、実際に見学する中で、将来の農業農村工学のあり方について考えていきます。異なる大学、多様な研究テーマでありながらも、同じ農業農村工学を学ぶ学生として、一緒に議論してみませんか？

1. 主 催

農業農村工学サマーセミナー実行委員会

- ・針谷龍之介（東京農工大学連合農学研究科）
- ・山崎 琢平（東京大学大学院農学生命科学研究科）

2. 日 時 平成25年9月6日（金）～7日（土）

3. 開催地（予定） 茨城県霞ヶ浦周辺

4. 参加費用（予定） 13,000円程度

5. 詳細・参加申込み

申込みは以下のホームページからお願いします。詳細は随時公開予定です。

URL：<https://sites.google.com/site/jsidress2013/>

6. 問合せ

E-mail：summerseminar.2013y@gmail.com

第37回水の週間「ウォーターフェア'13 東京」農業用水の展示出展について

農業用水展示実行委員会

「ウォーターフェア'13 東京」は例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。

今年も「水の展示会」に農業用水部門として、関係団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年までと同様に展示の準備を進め、出展することとなりました。今年は、東京国際フォーラムが開催する丸の内キッズジャンボリーの一部スペースを借りて開催します。

多くの方のご来場をお待ちしております。

記

1. 日 時 平成25年8月12日（月）～14日（水）

10:00～17:00

2. 場 所 東京国際フォーラム G 棟 510

3. 主 催 国土交通省、東京都、水の週間実行委員会

4. 全体テーマ 安全・安心な水のために

5. 農業用水テーマ 田んぼに水が届くまで（仮）

平成25年度「戦略的研究申請支援」助成希望者の募集について（再）

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度（原則1件20万円以内）です。

本年度の申請締切は平成25年9月13日（金）です。助成を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛に提出して下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。

る。

2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成対象のグループと金額の案を整理し学会長の認定を受ける。

3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を支給する。ただし、その期間は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究するこ

とが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

- (ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、参画者(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

5. 活動報告:助成金を支給された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登

録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切:平成25年9月13日(金)

申込先:戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail:tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項:

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成24年度までに65件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行:みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替:00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術の見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年ごと更新)に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局(FAX 03-3435-8494, E-mail:saigai@jsidre.or.jp)までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)よりダウンロードして下さい。多数のご登録をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ使用し、適切に取り扱います。

CPD 単位の算出基準の一部改定について（平成 25 年度以降）

農業農村工学会技術者継続教育機構では、第 22 回 CPD 運営委員会（平成 25 年 1 月 28 日開催）において「CPD 単位の算出基準」の検討を行い、平成 25 年度以降の研鑽記録を対象として、次の 4 つの教育形態区分の算出基準を改定いたしました。なお、詳細については本誌 3 月号（Vol.81/No.3）掲載の CPD ニュースレター第 17 号および機構ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>）をご覧ください。

① 【d】（認定されていない研修会等の受講）の年間上限値

を 20 CPD とする

② 【p】（認定されていない研修会等の講師）の年間上限値を 20 CPD とする

③ 【r】（成果を上げた業務—優良工事の表彰等—）を 1 件 20 CPD とする

④ 【x】（自己学習）の年間上限値を、農業農村工学会員については 20 CPD とする

CPD 記録受付期間の延長について（Web 申請対象）

農業農村工学会技術者継続教育機構では、平成 24 年 2 月より研鑽記録の提出に簡単・便利な「Web システム」を導入しました。Web システムを利用して研鑽記録を申請された場合は早期に CPD 単位の取得結果を確認でき、当該年度内であっても証明書の発行が可能ですので、是非ご利用下さい。

なお、Web での申請に限り、前年度の記録申請の受付期限

を、これまでの 4 月末日から「8 月末日」（つまり受付期間を 4 カ月延長）といたします。なお、「継続教育記録ノート」（Excel 形式）での受付は終了いたしました。詳細については本誌 3 月号（Vol.81/No.3）掲載の CPD ニュースレター第 17 号および機構ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>）をご覧ください。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま安価に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 CPD を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい !!

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 7 月号掲載の問題は 8 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 CPD を、7~9 問正解で 1.5 CPD を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属の記載方法の変更について

論文集企画・編集委員会

論文集企画・編集委員会では、論文集の投稿原稿査読時の氏名・所属の記載方法について会員からの意見も参考に検討を行った結果、従来の「無記名方式」から、平成 25 年 4 月 1 日の投稿より「記名方式」に変更いたしました。

今後の投稿においては、氏名・所属とも記名としていただくこととなりますので、よろしくお願いたします。

詳細は「投稿の手引き」（http://www.jsidre.or.jp/publ/ronbun/doc/how_to_submit_20130314.pdf）をご覧ください。

平成 26 年の表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会

学会誌企画・編集委員会では、平成 26 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 82 巻 (平成 26 年 1~12 月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで (デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定) 撮影して下さい (サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 平成 25 年 9 月 30 日

6. 審査 審査委員会 (編集委員と写真家) で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 82 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 26 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金 (1 点につき 3 万円) をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は (公社) 農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること (花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ (フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名詞 (固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております！

学会誌企画・編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」, 「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 81, 82 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
81 巻 8 号 老朽化したため池の整備・管理	公募終了
9 号 農業用水の水質保全 (仮)	公募終了
10 号 食料生産の安定・向上に向けて何をなすべきか (仮)	公募終了
11 号 環境との調和への配慮の“これまで”と“これから” (仮)	公募終了
12 号 私のお薦めのシミュレーションモデル (仮)	7月16日
82 巻 1 号 利用形態の多様化・高度化に対応した農業水利施設の更新についての技術的課題 (仮)	8月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail : henshu@jsidre.or.jp

81 巻 12 号テーマ「私のお薦めのシミュレーションモデル」(仮)

工学問題を扱う場合、数値シミュレーションは必須の道具となっています。パラメータや境界条件などが適切であれば、シミュレーションモデルは考慮されている法則が成立する範囲で信頼できる結果を出力します。このようなプログラムの中には、高価な商用ソフトウェアもありますが、利用者自身でプログラムの改変や拡張が可能なソース公開タイプのものや、利用登録のみで気軽に始められるものも存在します。これらは、特に大学や研究機関で広く利用されています。しかし、その性格

から、身近にユーザーがいれば利用機会が自ずと生まれますが、何の情報もなく利用を試みようとするれば、その理解に多大な時間を費やすこととなります。

この小特集では、各分野で普及している非商用シミュレーションプログラムについて、その対象とする現象やプログラムの特徴、情報の入手方法、応用事例、今後の拡張や発展の可能性についてコンパクトにまとめた報文を募集します。

82 巻 1 号テーマ「利用形態の多様化・高度化に対応した農業水利施設の更新についての技術的課題」(仮)

高度経済成長時代などに全国で整備された基幹的公共施設などは、建設後50年程度で大規模補修などが必要といわれ、全国で一斉にこれら施設の改修などが必要な時期を迎えつつあります。また、列島全体がさまざまな災害の本格的活動期に入ったといわれることなどから、施設の更新対策などの緊急度や国民的関心は急速に高まっています。

農業農村整備事業においても、新たな土地改良長期計画で約18兆円のストック量の基幹的農業水利施設の長寿命化などを最重要課題に位置づけ、平成28年までに約7割の施設の機能診断を行うとして、大規模に事業を推進しています(平成22年まで約4割)。

また、施設自体の長寿命化のみならず、施設が造成されて数十年経過する間に水源の流況変化や受益地の減少、あるいは営農・水利用の形態などの変化や水資源の合理化、さらには、攻めの農業に対応した大区画化、大規模汎用化への対応などによ

り、大規模な更新事業では、これらの変化に対応した水路システムの機能診断と更新が必要です。

しかしながら、施設の長寿命化対策や水路システムの機能診断・対策などは本格的に始動して以来、数多くの新たな技術的課題などに直面しており、事業主体が手探りで対策を進めている現状もあります。

さらに、これらストックマネジメント事業を進める上で、更新や維持管理費用を平準化するなど、アセットマネジメントの考え方も重要になります。

以上の状況より、水利施設の長寿命化や水路システムの機能診断と対策などに関し、最新の機能診断や非破壊調査技術、計画、対策、効率的な維持管理手法、低コスト化などに関する新たな研究成果や事例、現場技術の啓発普及などに資する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」

を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが0.986と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論

文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
- ② 排水（排水管理，排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発，水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生，陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）

⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

出版社：Springer-Japan 社

発行スケジュール：年4回

購読料：正会員・名誉会員 12,000 円

学生会員（院生含む）8,500 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

なお 2013 年発行予定の Vol.11 は No.1~No.4 の合併号が 2013 年 1 月に発行されておりますので、購読の申込みをいただきますと、この合併号をお届けし、次回は 2014 年 3 月頃の送本となります。

申込先：農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering）の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2013 年 1 月末に Vol.11, No.1~No.4 の合併号が発行されました。

本ジャーナルは 2009 年 12 月より、トムソン・ロイター社の SCIE（Science Citation Index Expanded）に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF（Impact Factor）が利用されており、本国際ジャーナルは IF=0.986 と高い評価を得ております。

また、世界 14 カ国から Editor（23 名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年 4 回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局は日本です。

投稿先：オンライン投稿（<http://pawe.edmgr.com/>）をご利用下さい。

編集事務局：Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL：+81-92-642-2909 FAX：+81-92-642-2914

E-mail：yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技

術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

・ Editor-in-Chief：Dr. Masaru MIZOGUCHI（Japan）

Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ Editors 14 カ国から 23 名

・ Editing Board 27 名

・ Managing Editors

Chief Management Editor：Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. CHOI, Jin Yong

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等：http://pawe.edmgr.com/に詳細を記載しています。

平成 25 年度東北支部総会・第 56 回東北支部研究発表会ならびに
第 46 回東北支部研修会・第 36 回地方講習会の開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 25 年 10 月 24 日（木）、25 日（金）

2. 会 場 ラ・プラス青い森

〒030-0822 青森市中央 1-11-18

☎ 017-734-4371 FAX 017-775-1218

3. プログラム（案）

（支部研修会・地方講習会の詳細は、本誌第 81 巻第 8 号掲載予定の第 3 報を参照願います。）

<第 1 日目>10 月 24 日（木）

(1) 総会ならびに研究発表会

9:00～9:30 受 付

9:30～10:15 支部総会

10:15～10:45 支部賞授賞式

10:45～11:00 休 憩

11:00～12:00 特別講演

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～17:00 第 56 回支部研究発表会

(2) 情報交換会

18:00～20:00 会場：ラ・プラス青い森

<第 2 日目>10 月 25 日（金）

(3) 支部研修会・地方講習会

9:00～9:30 受 付

9:30～9:40 開会挨拶

9:40～12:00 第 46 回支部研修会

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～15:20 第 36 回地方講習会

15:20～15:30 閉 会

4. 研究発表申込み

平成 25 年度の大会全般を青森県が担当しますが、研究発表会のプログラム編集は北里大学が担当します。

本報では「研究発表申込み」についてご案内し、「参加申込み」等は、本誌第 81 巻第 8 号掲載予定の第 3 報においてご案内

内する予定です。

(1) 研究発表申込み・問合せ先

研究発表要旨集原稿に投稿票を添えて、下記にお申し込み下さい。

〒034-8628 青森県十和田市東二十三番町 35-1

北里大学獣医学部生物環境科学科 眞家まで

☎ 0176-23-4371（代）

E-mail: maie@vmas.kitasato-u.ac.jp

(2) 要 領

研究発表要旨集原稿・投稿票の書き方については下記の農業農村工学会ホームページを参照して下さい。

http://www.jsidre.or.jp/shibu/tohoku/

(3) 発表時間・発表手段

発表時間は 15 分以内（発表 12 分、質疑 3 分）

発表補助手段（パソコン使用可 Power Point, CD-R, USB メモリ使用可）

(4) 研究発表申込み受付期間

平成 25 年 8 月 1 日（木）～30 日（金）【締切厳守】

5. 会場への案内

ラ・プラス青い森

(1) JR 利用の場合

・JR 青森駅東口から徒歩約 25 分

(2) バス利用の場合

・国道市役所前下車徒歩約 3 分

(3) 自家用車等利用の場合

・青森自動車道青森中央 IC で降りてから、約 10 分

(4) 航空機利用の場合

・青森空港からタクシーで約 30 分

・空港バスご利用の際は、柳町バス停下車徒歩約 3 分

6. 宿泊について

宿泊についての斡旋はいたしませんので、ご了承下さい。

第 64 回関東支部大会の開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 （公社）農業農村工学会関東支部

後 援 農林水産省関東農政局，栃木県

2. 支部大会講演会・講習会

(1) 日時 平成 25 年 10 月 30 日（水）

・受付 9:30～10:30

・講演会 11:00～15:00（昼食 12:00～13:00）

・講習会 15:00～16:20

・授賞式 16:30～17:00

(2) 会場 栃木県総合文化センター

栃木県宇都宮市本町 1-8

☎ 028-643-1000

http://www.sobun-tochigi.jp

- ・受付 1階サブホール前
- ・講演会 サブホール, 3階会議室
- ・講習会 サブホール
- ・授賞式 サブホール

(3) 会場への案内

- ・JR 宇都宮線・宇都宮駅西口からバスで「県庁前」下車
徒歩3分 または タクシーで約5分(約1.5km)
 - ・東武宇都宮線・東武宇都宮駅から徒歩10分
- ※無料駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用下さい。

3. 情報交換会

- (1) 日時 平成25年10月30日(水) 17:30~19:30
- (2) 会場 栃木県総合文化センター2階レストラン

4. 参加申込方法

(1) 申込み

「第64回農業農村工学会関東支部大会参加申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mail または FAX、郵送にてお申し込み下さい。

(2) 申込期限 平成25年8月30日(金)

(3) 参加費

- ・講演会, 講習会 2,000円
- ・情報交換会 4,000円

(講演発表者および学生は2,000円)

(4) 昼食について

昼食を希望される方は、お弁当(1,000円)を用意いたしますので、参加申込みと同時に申し込み下さい。

(5) 会費の納入方法

参加申込みと同時に全額前納して下さい。なお、キャンセル・変更については、9月30日以前のお申出に限りまして、振込手数料等の実費を差引き返金いたします。

それ以降のキャンセルにつきましては応じかねますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

【留意事項】

振込手数料は、各自にてご負担願います。

【振込先】

足利銀行 県庁内支店

店番号: 102 口座番号: 普通 5007371

口座名義: 農業農村工学会関東支部大会事務局

代表 洪井太美雄

(ノウギョウノウソンコウガツカイカントウ
シブタイカイジムキヨク ダイヒョウ シ
ブイタミオ)

※振込元が申込書と照合できるように、所属・氏名等は必ずご記入願います。

(6) 申込先および問合せ先(事務局)

〒320-8501 栃木県宇都宮市埜田1-1-20

栃木県農政部農村振興課内、

農業農村工学会関東支部事務局(担当: 関根, 山上)

☎028-623-2281(直通) FAX 028-623-2337

E-mail: nnkantotaiikai@pref.tochigi.lg.jp

(7) 申込様式

申込様式は、栃木県農政部農村振興課ホームページ上に掲載してありますので、ファイルをダウンロードしてご利用いただくことも可能です。

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g02/index.html>

または、「栃木県庁 農政部 農村振興課」で検索

第64回農業農村工学会関東支部大会参加申込書

所属		電話番号	
申込者氏名		FAX番号	
E-mail			
所属所在地			

参加者名および参加費用

ふりがな氏名	講演会等 ¥2,000 ○×を記載	昼食 ¥1,000 ○×を記載	情報交換会 (一般) ¥4,000 ○×を記載	情報交換会 (学生) ¥2,000 ○×を記載	計 金額を記入
合計					¥

5. 一般講演発表者申込方法

(1) 申込み

農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)の「支部講演会投稿票」の「支部講演会の投稿票について」に従って必要事項を記載し、4.(6)あてにメール送信して下さい。受領確認はメールで行います。

(2) 申込期限 平成25年7月31日(水)

(3) 原稿締切 平成25年8月30日(金)

(4) 原稿枚数 2枚または4枚

(5) 申込先および問合せ先 4.(6)に同じ

(6) 講演時間 質疑応答を含め15分程度

(7) その他 幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

昼食(お弁当)および情報交換会参加の有無につきましては、後日確認させていただきます。

6. その他

(1) 宿泊について

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自での対応をお願いします。

(2) 詳細は4.(7)の栃木県農政部農村振興課ホームページをご確認下さい。

第 68 回中国四国支部講演会ならびに第 37 回地方講習会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部講演会

日時：平成 25 年 10 月 17 日 (木) 9:30~17:00

会場：香川県社会福祉総合センター

〒760-0017 香川県高松市番町 1-10-35

☎ 087-835-3334 FAX 087-835-4777

http://www.kagawa-swc.or.jp

2. 情報交換会

日時：平成 25 年 10 月 17 日 (木) 18:00~20:00

会場：未定

3. 地方講習会

日時：平成 25 年 10 月 18 日 (金) 9:00~12:00

会場：香川県社会福祉総合センター

4. 問合せ先

香川県農政水産部土地改良課計画調査・指導グループ

井上, 門田, 谷川

〒760-8570 香川県高松市番町 4-1-10

☎ 087-832-3437 FAX 087-806-0205

E-mail: gy2528@pref.kagawa.lg.jp

5. 投 稿

(1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含め 1 課題 3 ページ以内とします。

投稿者は、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) の支部講演会投稿要領に従って原稿を作成し、原稿を PDF にしたファイルと投稿票をメールにより下記の申込窓口までお送り下さい。投稿票ファイルは学会のホームページからダウンロードして下さい。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」として下さい。受領確認はメールでの返信で行います。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者 (○印) の方は必ず連絡先メールアドレスをお書き下さい。

原稿は PDF を原則としますが、それが可能でない場合は市販の A4 判上質紙 (コピー用紙などをご利用下さい。感熱紙は不可) に印字したモノクロ原稿を、前記の学会ホームページ掲載の 1. 支部講演会投稿要領 (3) に従って投稿票とともに郵送して下さい。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも 1 名が学会員であることが必要です。

(3) 講演方法

個人発表とし、講演補助として液晶プロジェクター、パソコン、パワーポイント (2010) を準備します。

(4) 講演時間

1 課題につき 15 分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みのあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 参加申込み

講演者は、講演申込みとは別途に参加申込みもを行い、必ず参加費を納入して下さい。なお、参加申込書等詳細は、第 2 報でお知らせする予定です。

(7) 原稿の締切

平成 25 年 8 月 30 日 (金) 必着でお願いします。(遅延は不可)

6. 申込窓口

高知大学教育研究部自然科学系農学部 佐藤周之

〒783-8502 高知県南国市物部乙 200

TEL&FAX 088-864-5150

E-mail: syu@kochi-u.ac.jp

7. 詳 細

支部講演会、情報交換会および地方講習会の詳細については、本誌 8 月号に掲載予定の第 2 報にてお知らせいたします。

平成 25 年度九州沖縄支部大会 (第 94 回講演会・第 36 回講習会・シンポジウム・現地見学会) の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時

平成 25 年 11 月 6 日 (水)

9:30~17:00 支部大会開会式・支部賞授賞式・講演会

平成 25 年 11 月 7 日 (木)

9:30~16:50 講習会・シンポジウム (午前)

現地見学会 (午後)

2. 会場 (講演会・講習会・シンポジウム)

宮崎観光ホテル (<http://www.miyakan-h.com>)

〒880-8512 宮崎市松山 1-1-1 ☎ (代表) 0985-27-1212

※【JR】JR 宮崎駅から徒歩 20 分

【バス】^{たちばなど}橘 通り 1 丁目 (宮崎駅より約 10 分、大人片道 170 円) から徒歩 10 分

【車】JR 宮崎駅から 5 分、宮崎空港から 15 分

3. プログラム

(1) 11 月 6 日 (水) 支部大会開会式・支部賞授賞式・講演会

- ① 9:00～9:30 受付
- ② 9:30～10:00 開会式 (緋耀 (東館 3F))
- ③ 10:00～10:20 支部賞授賞式 (緋耀 (東館 3F))
10:20～10:30 (休憩)
- ④ 10:30～17:00 講演会
第1会場: 翠耀 (東館 3F)
第2会場: 紅 (東館 2F)
第3会場: 日向 (東館 2F)
- ⑤ 12:00～16:00 ポスターセッション
3F ロビー展示スペース
- ⑥ 16:30～17:00 ポスター賞授賞式
- (2) 11月7日(木) シンポジウム
場所: 第3会場 日向 (東館 2F)
時間: 9:30～11:20 (予定)
課題: 「九州と沖縄における土と水に関する諸問題」(仮)
- (3) 11月7日(木) 講習会 (①か②を選択)
場所: 第4会場 大虹 (東館 2F)
時間: 9:30～11:00 (予定)
課題①: 「土地改良事業計画設計基準 計画「ほ場整備(水田)」について」(仮)
場所: 第5会場 初雁 (東館 2F)
時間: 9:30～11:00 (予定)
課題②: 「土地改良事業計画設計基準 設計「水路工」について」(仮)
- (4) 11月7日(木): 現地見学会
集合時間: 12:20
集合場所: 宮崎観光ホテル 東館玄関
予定コース: (出発) 宮崎観光ホテル 12:20 → 13:10 ジェイエイフーズみやざき 13:40 → 14:20 切原ダム 14:50 → 15:10 畑かんがい営農大規模経営実証は場 16:00 → 16:50 宮崎駅 17:00 → 17:30 宮崎空港 (解散)
(※参加人数が25名に満たない場合は、中止する場合がございますのでご了承下さい。)

4. 参加費用

	11月6日(水)		11月7日(木)		
	講演会 参加費用	昼食代 (弁当)	講習会 参加費用	現地見学会	
一般料金	6,000円	1,000円	2,000円	3,000円	1,000円
学生料金	3,000円	1,000円	1,000円	2,000円	1,000円

5. 講演会(講演・ポスターセッション)の申込み

平成25年度の全体的な運営については宮崎県が担当しますが、講演会の受付、プログラム編集は宮崎大学が担当します。講演会の申込みは下記によりお申し込み下さい。なお、学生会員(学部生・研究生・大学院修士)はポスターセッションに申し込むことが確認されています。対象となる学生会員は講演ではなく、ポスターセッションにお申し込み下さい。

また、過去15年以内に価値ある業績等を通算3回以上口頭

発表した会員に授与する研鑽賞は自己申告ですので、受賞の対象と思われる方は講演会投稿票に発表年度・講演題目を記入して下さい。

(1) 投稿締切 平成25年8月30日(金) 厳守

(2) 投稿先・問合せ先

投稿先 E-mail: toyomitu@cc.miyazaki-u.ac.jp

問合せ先 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1

宮崎大学農学部 豊満幸雄

TEL & FAX 0985-58-7234 (直通)

(3) 投稿要領

「講演要旨原稿」と「講演会投稿票 (MS-Excel 形式)」を投稿先まで電子メールでお送り下さい。講演要旨原稿は、PDF ファイルで投稿して下さい。講演要旨原稿と講演会投稿票の作成方法および講演会投稿票 (MS-Excel 形式) は、下記 8. に示した九州沖縄支部ホームページに掲載していますので、参照またはダウンロードして下さい。

(4) 講演要旨原稿の書き方

図・表・写真等を含めて、1 題につき 2 ページまたは 4 ページとし、3 ページや 5 ページ以上の原稿は受け付けません。「講演会投稿票・講演要旨の書き方」(九州沖縄支部ホームページ) を参照して下さい。

(5) 講演方法

1 題につき、質問・交代時間を含めて 10～12 分程度の発表を予定しています。なお、講演の補助機材としてパソコン (OS: Windows, ソフト: MS-PowerPoint2010) とプロジェクターを事務局で用意しますが、OHP やスライドは受け付けません。

(6) ポスターセッションの方法

原則として学生会員 (学部生・研究生・大学院修士) を対象に募集します。ポスターセッションは、研究の背景や成果および将来への展望などを発表者と参加者が 1 対 1 の差し向かいで討議できるという特徴を備えています。また、発表者の中からポスター賞を若干名授与します。

事前のポスター送付は不要ですが、「講演要旨原稿 (PDF ファイル)」と「講演会投稿票 (MS-Excel 形式)」を上記 5. (1) の投稿締切までに電子メールでお送り下さい。

1) 枚数

1 課題 A0 判 1 枚以内

2) 掲示

ポスターは、11月6日(水) 12:00 までに本人の責任で所定の位置に掲示して下さい。当日は掲示用に 2.4m (縦) × 1.8m (幅) のパネルを設置する予定です。

6. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

参加申込書により所属ごとに取りまとめ、メールある

いはFAXで下記7.の事務局へお申し込み下さい。講演およびポスターセッション希望者についても、参加申込みが必要です。

なお、参加申込書様式（MS-Excel形式）は下記8.に示した九州沖縄支部ホームページからダウンロードして下さい。

(2) 申込期限

平成25年9月6日（金）

なお、会場の都合により定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込み下さい。

(3) 参加費の納入方法

銀行振込みか当日支払いとなります。どちらで納入するか、参加申込書へご記入願います。

10月初旬以降に、請求書を送付いたします。指定期日までに振り込みいただくか、当日会場にてお支払い下さい。

さい。

なお、振込後の参加費用等の返還には応じられませんので、ご注意下さい。

(4) 宿泊について

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、ご了承下さい。

7. 参加申込先・問合せ先

農業農村工学会九州沖縄支部講演会・講習会運営事務局

宮崎県農政水産部農村計画課 担当：内田、田村

〒880-8501 宮崎市橋通東2-10-1

☎0985-26-7165（直通）FAX 0985-26-7343

E-mail（田村）：tamura-takahiro@pref.miyazaki.lg.jp

8. 九州沖縄支部ホームページ

http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/tasumi/jsidre_kyushu_okinawa25/

平成25年度資源循環研究部会研究発表会の発表者募集について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



資源循環研究部会では、農村における水循環やバイオマス利活用に係る技術の発展および技術者・研究者等の学術交流を目的として、研究発表会を開催することとしています。

今後の地域づくりには資源循環技術が欠かせない、との考えから、「資源循環技術を活用した強い地域づくりを目指して」と題して、最新の調査・研究成果の発表ならびに事例報告を募ります。

是非、この機会をご活用いただきたく、皆様のご応募をお待ちしています。

1. 開催日（予定）平成25年11月15日（金）

13：30～17：30

2. 会場 東京都港区新橋周辺

3. 内容

＜資源循環技術を活用した強い地域づくりを目指して＞

◎基調講演

◎研究発表ならびに事例報告

（農村における水やバイオマス資源等の循環および利活用に係る調査・研究の最新成果、先駆的な取組み事例）

4. 研究発表ならびに事例報告の要領

(1) 資格

農業農村工学会資源循環研究部会員とします。

（今回の発表・報告に併せた入会（無料）ができます。）

(2) 内容

◎総数8課題程度とします。

①研究発表：調査・研究の最新成果

論文作成：研究発表会当日、論文集を作成し配布します。

表彰：優秀な論文については、部会長賞を与え、発表会場で表彰します。

留意事項：研究発表にかかる論文については査読委員会にて査読を行い、場合によっては加筆修正をお願いする場合があります。

②事例報告：先駆的な取組み事例

留意事項：事例報告にかかる論文については査読委員会による査読を行いませんが、事務局などの判断により修正をお願いする場合があります。

(3) 発表方法

①個人発表とし、1人（共同研究の場合は口頭発表者）1課題とします。

②発表を補助する映像機器として、パソコンおよびプロジェクターを用意します。

③研究発表の発表時間は、25分程度/人（発表20分、質疑応答5分程度）の予定です。

5. 申込方法

(1) 発表申込み

①申込用紙の提出をもって申込みとみなします。

申込用紙は研究部会ホームページよりダウンロードして下さい。

②原則として電子メールにて受け付けます。受理次第、当方から確認のメールを送信させていただきます。

③締切は平成25年7月22日（月）とします。

④なるべく多くの方に発表してもらおう考えですが、応募総数、内容によってお断りする場合があります。応募者へは7月下旬に通知する予定です。

(2) 投稿

①研究発表が決定した応募者には発表論文を作成していただきます。論文集原稿作成要領を研究部会ホーム

ページに掲載していますのでご確認願います。また、事例報告が決定した応募者には報告レポートを作成していただきます（様式等方法については別途ご連絡します）。

②投稿締切は平成25年8月23日（金）とします。

(3) 申込み・問合せ先

農業農村工学会資源循環研究部会

事務局：（一社）地域環境資源センター

集落排水部企画調整班（担当：井上、大瀧）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

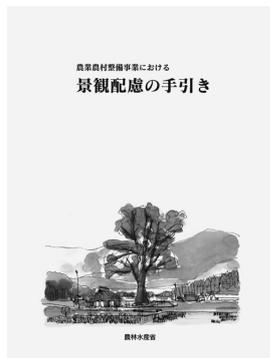
☎ 03-3432-6282 FAX 03-3432-0743

E-mail：sigen@jarus.or.jp

研究部会ホームページ：

<http://www.jarus.or.jp/sigen/>

農業農村整備事業における 景観配慮の手引き



目次

- 第1章 手引きの目的
- 第2章 農村景観の特徴と農業農村整備の展開方向
- 第3章 農村景観の保全、形成の基本的な考え方
- 第4章 景観配慮対策の進め方
- 第5章 調査
- 第6章 計画
- 第7章 設計、施工及び維持管理
- 用語集
- 引用文献・参考文献
- 検討の経緯
- 参考資料

A4判 163ページ
定価 3,200円
(内税・送料学会負担)

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
☎ 03-3436-3418 FAX 3435-8494

環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針 農業農村整備事業における 生態系配慮の技術指針



目次

- 第1章 技術指針の目的と活用
- 第2章 農村地域の特徴と生物多様性
- 第3章 ネットワークの保全・形成の基本的な考え方
- 第4章 調査、計画
- 第5章 設計、施工
- 第6章 維持管理、モニタリング
- 用語集
- 引用文献・参考文献
- 検討の経緯
- 参考資料

A4判 161ページ
定価 3,300円
(内税・送料学会負担)

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
公益社団法人 農業農村工学会
☎ 03-3436-3418 FAX 3435-8494